

郷土摂津

第76号

平成16年8月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

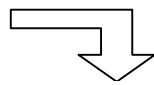
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の
石造文化財一石五輪塔
板碑型二尊仏
(千里丘3丁目)

第5回

一石五輪塔 笠部は四隅を直線的に、火輪はまっすぐに切り立ち、塔身の水輪は扁平に仕上げられています。銘文は入っていません。宝珠と請花は一体的な作りで、全体的に美しさが見られます。全高74 cm、幅18 cm。この一石五輪塔は江戸時代初期のものと思われます。



一石五輪塔 地輪には紀年銘文が入っていません。特徴的なのは大胆な笠石です。軒を極端なまでに反ってつくっています。江戸時代特有の軒の反りで、初期の頃と思われます。石質は花崗岩を使用しています。全高56 cm、幅15 cm。



銘文(正面)
貞亨四己年
大法師道
十月十二日
の部分
は摩滅が激しく不明

板碑型二尊仏 阿弥陀仏の二尊仏です。石質は花崗岩。頂部は鋭く加工されていて、頂上から切込みへなだらかなカーブを描き特徴的です。切込部は三帯の額を有し、左右平行に直線の切込線を入れるのみです。わずかに額を表現しており、少なくとも江戸時代初期とみられます。二尊の阿弥陀仏は、左側の阿弥陀仏が少し小さく、顔面はほとんど摩滅しています。脇からのびた腕は太く、あたかも法衣を思わせる姿が見られます。それに比べ右側のものは、しっかりと背をのぼし大きく彫っています。蓮華座は大胆にひとつにしています。



ドキ!ドキ!土器づくり

とき 8月20日(金)午後1時~午後4時
8月30日(月)午前10時~午後3時

ところ 千里丘公民館 生活実習室

対象 小中学生

定員 15名

材料費 800円(野焼き粘土300円・勾玉セット200円・食材300円)

申し込み 住所 氏名(保護者の方と児童の両方) 電話番号 学年を記入の上、下記までハガキで申し込み下さい。
〒566 - 8555 摂津市三島1丁目1番1号
摂津市教育委員会 生涯学習課
「ドキ!ドキ!土器づくり」係まで。申し込み多数の場合は抽選となります。

8月20日(金)

粘土で土器のかたちをつくる
貫頭衣をつくる
貫頭衣に古代の文様をつける

8月30日(月)

土器を焼く 勾玉づくり
燻製(くんせい)づくり 赤米を炊く



古代体験学習 サポートグループ ハンス・オン!

古代人の生活や知恵を学び、体験学習を通じて後世の人々に伝えていくサポートメンバーを募集しています。8月13日(金) 17日(火) 両日とも午後1時~4時の研修会を受講していただき前述の体験学習講座に参加していただきます。申し込みは生涯学習課まで電話又はハガキで。

石碑・顕彰札の紹介

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘東3丁目1

【設置年度】平成8年度

流れの馬場跡

浄土真宗の信者が多く、石山本願寺にも近い摂津市域では、石山合戦で一生命働いた人が大勢いました。合戦が和議により終結したため、本願寺に籠城していた勝久寺(千里丘東3丁目)の住職頓恵や百姓たちはいったん自分たちの村に帰りました。しかし顕如の子、教如が徹底抗戦を呼びかけ、勝久寺門徒はこれに応じました。

天正8年(1580年)5月28日、法話や読経のため多くの人々が勝久寺に集まっているとき、ふいに信長の軍勢が来襲し、本堂を焼き払い、集まっていた信徒たちを殺害しました。このとき、血が川となって流れたところが「流れの馬場」と呼ばれるようになりました。

また死体を少し離れた谷に埋めたので、ここを「死屍谷(シカバナタニ)」と呼んだと伝えられています。

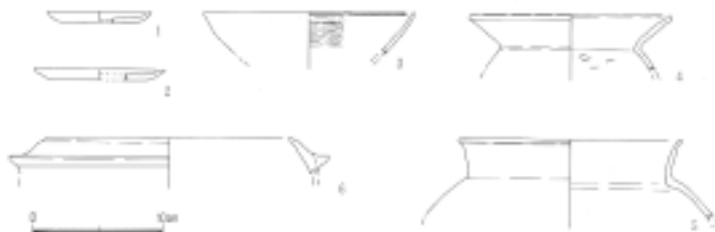


第39回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土

平成4年に大阪府文化財センターにより和道遺跡の発掘調査が実施されました。調査はボーリング柱状図により土層が変化するごとに土砂を分離して置き、その土砂を人力で再掘削して遺物を収集していきました。この結果、現状地盤から7m下ま

での各層において、遺物は検出されました。古墳時代から江戸時代までの時期のものが例外なく混ざっている状況でした。遺物の種類は土師器、須恵器、陶磁器、瓦器、鉄製品、木材片などです。これらは、すべて河川堆積からの出土で上流から流れてきた遺物です。いずれの遺物もローリングという摩滅が激しいことからその事が覗えます。和道遺跡は集落ではなく、遺物が採集された場所として周知されています。(つづく)



和道遺跡出土遺物実測図



調査地遠景